

鈴鹿山系 タイジョウ(1061m)を経てイブネ(1160m)・クラシ(1145m)周遊

2014年5月18日(日) 晴れ

L : 磯部N(記)、布田

鈴鹿山系には、カクグラ・タイジョウ・イブネ・クラシ・アゲンギョなどのカタカナ表記の珍しい地名の場所がいくつかある。

今回は鈴鹿セブンマウンテン(※)の一つである人気の雨乞岳から北に延びる稜線上にあるイブネ・クラシへ登山道があるらしい(?) タイジョウを越えてたどり着き、雨乞岳直下の杉峠へ南下して、出発地の滋賀県・甲津畑へ戻るマニアックな計画を立てた。

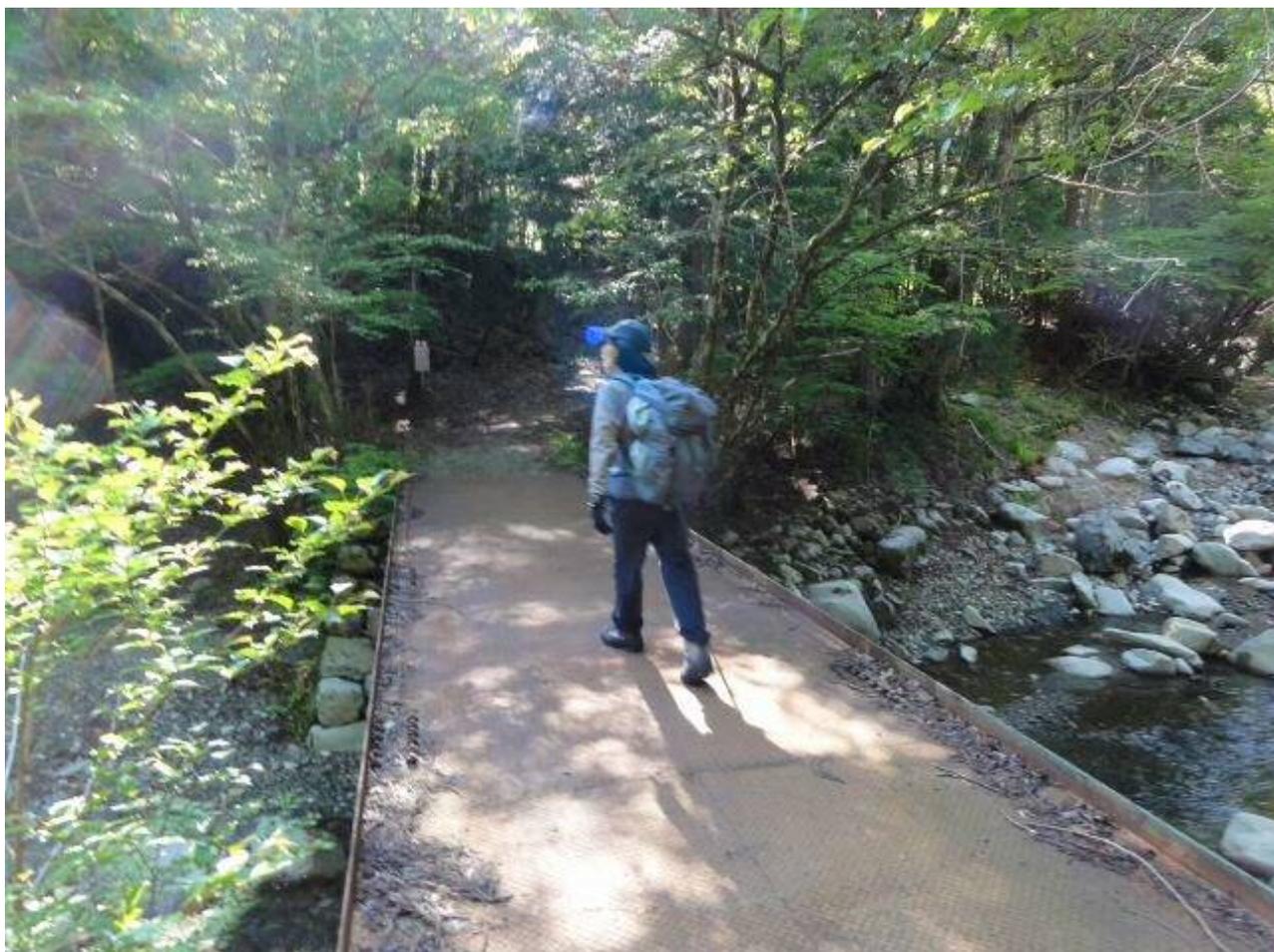
(※地元三重県では、鈴鹿山脈の藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、御在所岳、雨乞岳、鎌ヶ岳、入道ヶ岳の七つの山を昔からそう呼ばれ、親しまれている)

この辺りは、かつて背丈ほどの笹に覆われ、よほどの物好きか、力のある山人にしか近づけなかったので、「鈴鹿の秘境」と呼ばれていた。

けれど、ここ数年鈴鹿の笹が天然更新(?)で一斉に枯れて、歩きやすく、訪れる人も増えているらしい。

イブネ・クラシは展望もよく伊勢湾と琵琶湖が同時に望めて、日本庭園風の山域なので今では「鈴鹿の上高地」「鈴鹿の奥座敷」などとも呼ばれ、テント山行は「イブネでクラシ」という造語で呼ぶ人も いるほど、人気が出てきている。

朝、甲津畑奥の岩ヶ谷林道の渋川にかかる橋のたもとから歩き出す。1時間ほどは、かつて、織田信長も通ったといわれる滋賀県から三重県へ抜ける千種街道跡を歩く。石をくんだ住居跡など往時が忍ばれる。



千種街道の橋を渡ると登山口は近い

やがてタイジウへの登山口に行き着き、緩やかに登り始める。が、しばらくしてテープもなくなり、踏み跡もはっきりせず、地図をたよりに尾根をひたすらめざす。傾斜もなかなかで、木につかまり、足場になりそうな場所を探して四つんばいでよじ登る。たどり着いた尾根は、踏み跡が有るような、無いような。痩せ尾根の上にアセビやシャクナゲが道を塞いで、格闘しながら乗り越えるので、疲れること、この上ない。でも、今の時期、シャクナゲは満開で、タイジウまでシャクナゲ街道だった。



踏み跡を捜しつつ、尾根を歩く



痩せ尾根に咲くワカミ



頭上のシャクナゲに見とれる



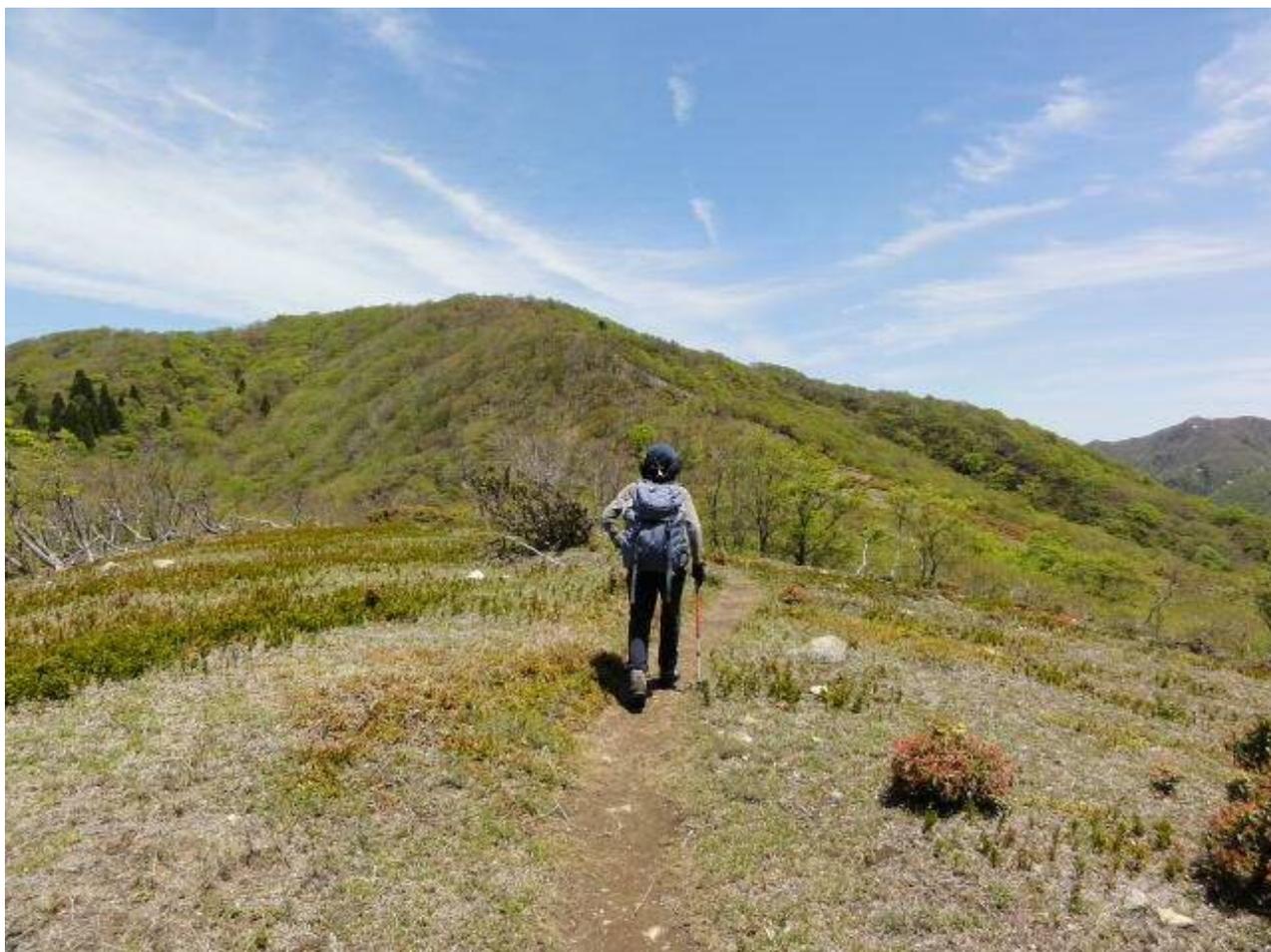
満開のシャクナゲ

タイジウからは踏み跡がはっきりして、テープも増えた。ここから、ようやく一息つける道になって、新緑の中、気持ち良く歩く。

ようやく、杉峠からの尾根に合流して、人に会うようになった。いよいよ、イブネへなだらかに登っていく。

たどり着いたイブネは、シロヤシオの蕾がびっしりのゆったり広がる台地だった。伊勢湾と琵琶湖が麓の町とともに見えた。

激登りの後の癒しの空間だった。



かつての秘境は今、開放感一杯の空間になった

日本庭園のような登山道をクラシまで歩く。クラシは展望の無い頂上だがシャクナゲの花の中の頂上だった。
下りは、杉峠から数々の史跡を確認しながら、一般登山道を下りた。

春の鈴鹿は雑木林が多いので優しい新緑に包まれながら歩けると花が多いので大好きな故郷の山域だ。

<タイム> 甲津畑(7:05)－タイジウ登山口(8:00)－タイジウ頂上(10:38-55)－イブネ頂上(12:20)－クラシ頂上(12:40)－杉峠(14:10-15)－タイジウ登山口(15:45)－甲津畑(16:30)

以上